

よぬだ とろどころ



第四十号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

東栃井 津田藤馬氏

ツダ トウマ氏



津田左右吉氏の父親で、明治維新により今尾藩領(竹腰氏は尾張藩の付家老で、以前から尾張藩から独立することを希望しており、維新後立藩を認められたがすぐに廃藩となつた)の下米田に帰農した。帰農したといえ、士族としての矜持はもちながら、下米田で一生を過ごした。左右吉氏の思い出によれば、尾張の地に対する思い入れが断ち切れず、親戚の法事という名目のもと、頻繁に左右吉や祖母を連れて名古屋へ行ったという。藤馬氏と同じような境遇で下米田に帰農した人は、そのほとんどが名古屋へ帰っていったという。なぜ、藤馬氏だけがこの地に残ったかについては左右吉氏もよくわからないとしている。一つ言えることは、左右吉氏の回想では、父藤馬氏は息子に対して、立身出世や武芸の強要をしたりしなかったことと飛騨川での釣りなど

で飄々として毎日を過ごしていたということを言っている。

上記写真は向かって右の大きな石碑が藤馬の墓石である。これは、左地図の赤丸の位置にある。小地名的には東栃井の「高月(コウゲツ)」と呼ばれる場所にある。

並んでいる他三基も同じ円礫でつくられた基壇の中にある、その一つは左右吉の祖母の

ものである。おばあさん子であった左右吉は、四十九日を迎えるまで毎日墓参していたと述懐している。さて、藤馬の墓石には「津田藤馬之墓」と彫られており、禅宗などいわゆる仏教系の戒名はみられない。藤馬の母は法華系であり、津田の家は浄土系であることから考えて、これは明治維新の影響を強く受けているものと推察されるがいかがであろうか。このあたりのことについてはよくわからないので今後の調査に待ちたい。なお、蛇足であるが関東にある左右吉氏の墓石には、「無」と彫られており、このあたりの関係についても知りたいところである。

